

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2024年7月22日まで（2007年7月27日設定）	
運用方針	主として円建ての外国投資信託であるKB Iエコ・ウォーター・ファンドおよび証券投資信託である日本短期債券マザーファンドの投資信託証券への投資を通じて、世界（含む日本）の水関連企業の株式に実質的な投資を行います。実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要運用対象	三菱UFJグローバル・エコ・ウォーター・ファンド	円建ての外国投資信託であるKB Iエコ・ウォーター・ファンドおよび証券投資信託である日本短期債券マザーファンドの投資信託証券への投資を主要投資対象とします。
	KB Iエコ・ウォーター・ファンド	世界（含む日本）の水関連企業の株式を主要投資対象とします。
	日本短期債券マザーファンド	わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とします。外貨建資産への投資は行いません。
主な組入制限	株式への直接投資は行いません。投資信託証券への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への直接投資は行いません。	
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。  
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 運用報告書（全体版）

# 三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド

愛称：ブルーゴールド

第12期（決算日：2019年7月22日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
 さて、お手持ちの「三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド」は、去る7月22日に第12期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。  
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



## 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用  
 フリーダイヤル **0120-151034**  
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、  
 土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数)		債券組入比率	債券先物比率	投資信託証券組入比率	純資産額
	(分配落)	税込分配金	期中騰落率	MSCI ワールドインデックス (円換算ベース)	期中騰落率				
	円	円	%		%	%	%	%	百万円
8期(2015年7月22日)	10,100	700	6.5	162.90	24.6	0.2	—	97.4	6,056
9期(2016年7月22日)	8,912	0	△11.8	133.44	△18.1	0.2	—	98.1	5,048
10期(2017年7月24日)	10,195	900	24.5	160.76	20.5	0.2	—	97.0	4,717
11期(2018年7月23日)	10,132	700	6.2	175.69	9.3	0.2	—	97.0	4,057
12期(2019年7月22日)	9,576	0	△5.5	175.40	△0.2	0.3	—	98.2	3,676

(注) 当ファンドの基準価額は、投資対象とする投資信託証券については、前営業日の基準価額を基に計算しております。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) MSCI ワールド インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数です。MSCI ワールド インデックス (円換算ベース) は、MSCI ワールド インデックス (米ドルベース) をもとに、委託会社が計算したものです。また、MSCI ワールド インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		( 参 考 指 数 ) MSCI ワールド インデックス (円換算ベース)		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落 率		騰 落 率			
(期 首) 2018年 7 月23日	円	%		%	%	%	%
	10,132	—	175.69	—	0.2	—	97.0
7 月 末	10,151	0.2	176.52	0.5	0.2	—	98.1
8 月 末	10,365	2.3	179.34	2.1	0.2	—	98.6
9 月 末	10,327	1.9	183.99	4.7	0.2	—	98.5
10 月 末	9,250	△ 8.7	167.43	△ 4.7	0.3	—	98.0
11 月 末	9,552	△ 5.7	170.91	△ 2.7	0.2	—	98.0
12 月 末	8,708	△14.1	153.01	△12.9	0.3	—	97.7
2019年 1 月 末	9,360	△ 7.6	162.18	△ 7.7	0.3	—	98.4
2 月 末	10,141	0.1	171.69	△ 2.3	0.2	—	98.1
3 月 末	9,863	△ 2.7	172.13	△ 2.0	0.2	—	98.0
4 月 末	10,217	0.8	179.27	2.0	0.2	—	97.9
5 月 末	9,433	△ 6.9	167.28	△ 4.8	0.3	—	98.2
6 月 末	9,710	△ 4.2	172.85	△ 1.6	0.3	—	98.5
(期 末) 2019年 7 月22日	9,576	△ 5.5	175.40	△ 0.2	0.3	—	98.2

(注) 当ファンドの基準価額は、投資対象とする投資信託証券については、前営業日の基準価額を基に計算しております。

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

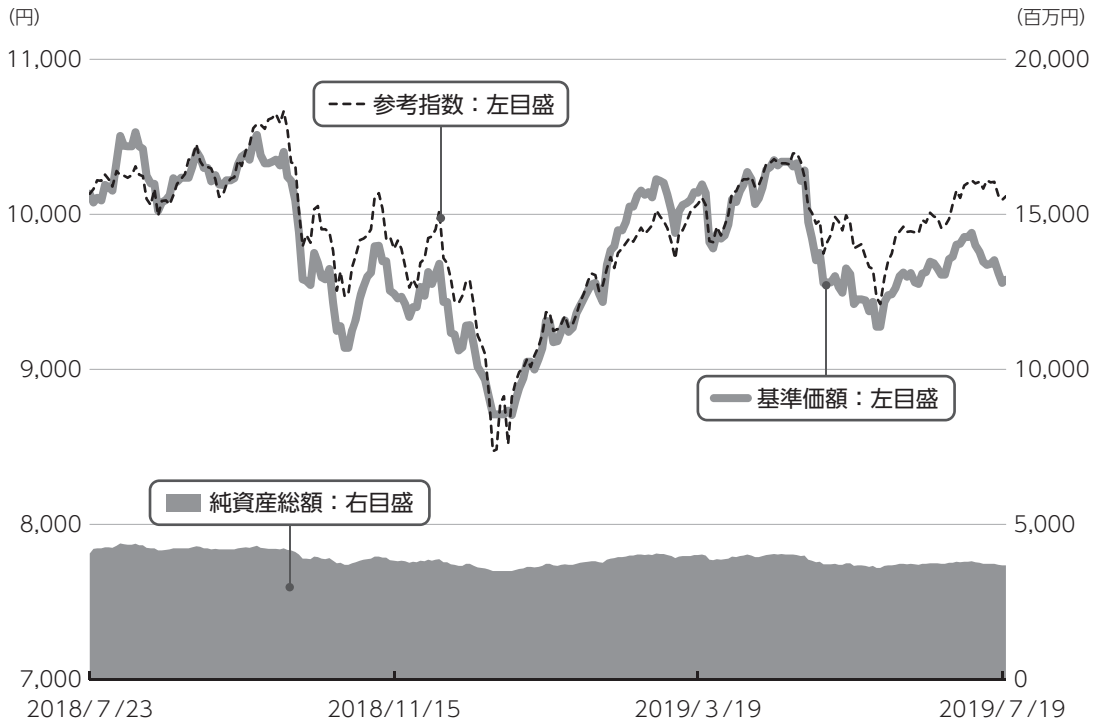
(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

# 運用経過

第12期：2018年7月24日～2019年7月22日

## ▶ 当期中の基準価額等の推移について

### 基準価額等の推移



第12期首	10,132円
第12期末	9,576円
既払分配金	0円
騰落率	-5.5%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

### 基準価額の動き

基準価額は期首に比べ5.5%の下落となりました。

## ▶ 基準価額の変動要因

### 下落要因

COSTAIN GROUP PLC（イギリス）やJAIN IRRIGATION SYSTEMS LTD（インド）などの一部水関連企業の株価が下落したことや米ドルが円に対して下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

## 投資環境について

### ▶ 株式市況

**株式市況はほぼ横ばいとなりました。**

期初から2018年9月までは、底堅い米国景気などを背景に上昇基調で推移しました。10月から12月にかけては米中貿易摩擦などによりグローバル経済の先行き不透明感が強まったことなどから下落しました。その後は、米国の利上げ観測が後退し、利下げ観測が高まったことなどから上昇しました。期を通じてみるとほぼ横ばいとなりました。

### ▶ 為替市況

**米ドルは円に対して下落しました。**

米国の良好な経済指標や米国金利の上昇などを受けて米ドルが円に対して上昇する局面があったものの、世界経済の先行き不透明感などを背景に投資家のリスク回避姿勢が高まったことや米国における利下げ観測が高まったことなどから、米ドルが円に対して下落し、期を通してみると米ドルは対円で下落しました。

### ▶ 国内短期債券市況

**国内金利は低下、一般債の国債とのスプレッド（利回り格差）は拡大**

国内金利は、期初から2018年10月ごろまで概ね横ばいで推移していましたが、その後需給の引き締めや海外金利の低下などから低下基調となり、前期末比低下した水準で期末を迎えました。こうしたなか一般債の国債とのスプレッドは、日銀の社債買入オペや投資家の資金余剰感などにより概ね良好な投資環境であったものの、英国の欧州連合（EU）からの離脱の行方に対する懸念などから円建外債の一部銘柄などが拡大しました。2019年5月から期末にかけては、国内金利が低下する場面で円建外債以外が拡大しました。

## ▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

### ▶ 三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド

アイルランド籍円建て外国投資信託であるKBIエコ・ウォーター・ファンドへの投資を通じて、世界（含む日本）の水関連企業の株式などを実質的な主要投資対象とし、中長期的な値上がり益の獲得をめざした運用を行いました。また、日本短期債券マザーファンド投資信託証券を一部組み入れた運用を行いました。

### ▶ KBIエコ・ウォーター・ファンド

成長見通しが明るいと思われる企業や、水関連の各分野で市場を牽引していくような企業への投資を継続しました。

投資分野別では、「水関連装置」、「公益事業」、「水処理技術」の3つの分野を中心とした投資を継続しました。

「水関連装置」分野については、今後の水関連需要の増加が見込まれると考え投資を継続しました。

「公益事業」分野については、水関連需要の高まりから関連銘柄への投資のほか、

株式市場全体の変動性が高まった場合の株価の安定性を期待し、投資を継続しました。

「水処理技術」分野については、中国などにおける水質汚染に対する規制強化などから、高い技術を有する企業が恩恵を受けると考え投資を継続しました。

### ▶ 日本短期債券マザーファンド 組入比率

期を通じて高位組み入れを維持しました。

#### 債券種別構成

国内金利の低位安定推移を見込み、利回り向上の観点から一般債をオーバーウェイトとしました。

#### デュレーション（平均回収期間や金利感応度）

日銀の緩和的スタンス継続から、デュレーションをベンチマーク（NOMUR A-BPI短期）対比長めで調整しました。

#### 残存期間構成

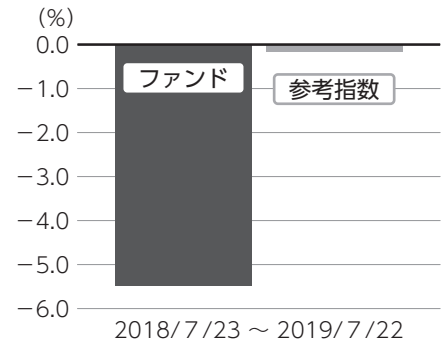
利回り向上の観点から中期ゾーンをオーバーウェイトとしました。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。

参考指数はMSCI ワールド インデックス（円換算ベース）です。

### 基準価額と参考指数の対比（騰落率）



## 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第12期
	2018年7月24日～2019年7月22日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	649

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### ▶ 三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド

アイルランド籍円建て外国投資信託であるKBIエコ・ウォーター・ファンドおよび証券投資信託である日本短期債券マザーファンドへの投資を行います。

### ▶ KBIエコ・ウォーター・ファンド

世界的に水の使用量拡大が見込まれることなどを背景に、水関連市場における需要は引き続き強いと考えています。特に、水インフラ関連への設備投資は、公共投資拡大や老朽化に伴う更新需要の拡大を背景に、今後グローバルに増加するとみられ、良好な投資環境が継続すると考えています。また、水質汚染問題がさらなる規制強化に繋がり、水処理技術などの市場が拡大するとみています。

バリュエーションを重視しつつ、独自のテーマに基づき今後の業績拡大が期待できる企業に注目します。加えて、財務改善策や事業再編への取り組みにも注目し、銘柄選別を実施する方針です。

### ▶ 日本短期債券マザーファンド

安定した利子収益確保をめざし、債券組入比率は引き続き高位に維持する方針です。

本邦景気は当面海外経済の減速の影響を受けつつも、総じて緩やかに拡大していくとみられます。しかし、消費者物価の前年比は依然として2%に遠く、日銀は引き続き強力な金融緩和を粘り強く続けていくと思われ、中短期金利は引き続き低位での推移を想定します。ファンド全体のデュレーションは、ベンチマーク並みを基本に調整する方針です。

一般債のスプレッドについては、日銀の社債買入オペや投資家の資金余剰感などによる概ね良好な需給環境を背景に概ね横ばい圏で推移し、引き続き一般債は国債と異なりプラス利回りを維持できると予想します。こうした見通しの下、債券種別構成は流動性や銘柄分散に留意しつつ、プラス利回りである一般債の組入比率をベンチマーク比高めに維持します。

2018年7月24日～2019年7月22日

## 1 万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	105	1.076	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
( 投 信 会 社 )	( 26 )	( 0.269 )	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	( 74 )	( 0.753 )	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 5 )	( 0.054 )	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 0 )	( 0.003 )	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
( そ の 他 )	( 0 )	( 0.000 )	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	105	1.079	

期中の平均基準価額は、9,770円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

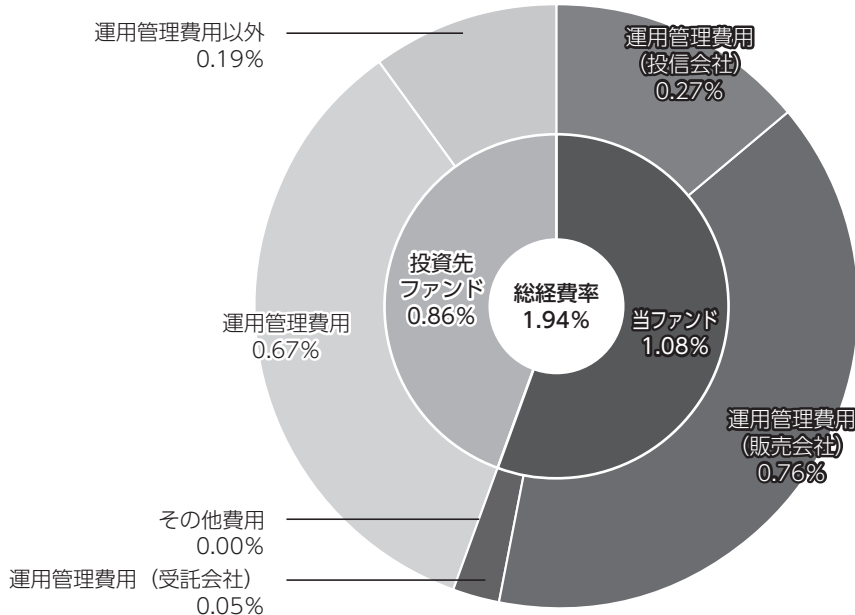
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.94%**です。



総経費率 (①+②+③)	(%)	1.94
①当ファンドの費用の比率	(%)	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	0.67
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	(%)	0.19

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2018年7月24日～2019年7月22日)

## 投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	KB Iエコ・ウォーター・ファンド	千口 32	千円 458,050	千口 42	千円 603,654

(注) 金額は受渡代金。

## ○利害関係人との取引状況等

(2018年7月24日～2019年7月22日)

## 利害関係人との取引状況

&lt;三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド&gt;

該当事項はございません。

&lt;日本短期債券マザーファンド&gt;

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
		百万円	B A		百万円	D C
公社債	百万円 1,334	百万円 200	% 15.0	百万円 1,529	百万円 -	% -

平均保有割合 0.5%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

(注) 公社債には現先などによるものを含まません。

## 利害関係人の発行する有価証券等

&lt;日本短期債券マザーファンド&gt;

種類	買付額	売付額	当期末保有額
公社債	百万円 100	百万円 200	百万円 202

## 利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

&lt;日本短期債券マザーファンド&gt;

種類	買付額
公社債	百万円 300

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJリース、アコム、日立キャピタルです。

## ○組入資産の明細

(2019年7月22日現在)

## ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額 比 率
	千口	千口	千円 %
KB I エコ・ウォーター・ファンド	258	248	3,610,880 98.2
合 計	258	248	3,610,880 98.2

(注) 比率は三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンドの純資産総額に対する比率。

## 親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
日本短期債券マザーファンド	8,887	8,887	9,972

## ○投資信託財産の構成

(2019年7月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	3,610,880	97.5
日本短期債券マザーファンド	9,972	0.3
コール・ローン等、その他	80,804	2.2
投資信託財産総額	3,701,656	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年7月22日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	3,701,656,572
コール・ローン等	80,804,277
投資信託受益証券(評価額)	3,610,880,004
日本短期債券マザーファンド(評価額)	9,972,291
(B) 負債	25,349,130
未払解約金	4,835,687
未払信託報酬	20,460,041
未払利息	157
その他未払費用	53,245
(C) 純資産総額(A-B)	3,676,307,442
元本	3,839,202,609
次期繰越損益金	△ 162,895,167
(D) 受益権総口数	3,839,202,609口
1万口当たり基準価額(C/D)	9.576円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 4,004,175,708円  
 期中追加設定元本額 202,800,041円  
 期中一部解約元本額 367,773,140円  
 また、1口当たり純資産額は、期末0.9576円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は162,895,167円です。

## ③分配金の計算過程

項 目	2018年7月24日～ 2019年7月22日
費用控除後の配当等収益額	－円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	66,972,583円
分配準備積立金額	182,556,518円
当ファンドの分配対象収益額	249,529,101円
1万口当たり収益分配対象額	649円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

## ○損益の状況 (2018年7月24日～2019年7月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 50,195
受取利息	102
支払利息	△ 50,297
(B) 有価証券売買損益	△171,196,806
売買益	10,688,276
売買損	△181,885,082
(C) 信託報酬等	△ 42,079,993
(D) 当期損益金(A+B+C)	△213,326,994
(E) 前期繰越損益金	182,556,518
(F) 追加信託差損益金	△132,124,691
(配当等相当額)	( 66,972,511)
(売買損益相当額)	(△199,097,202)
(G) 計(D+E+F)	△162,895,167
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△162,895,167
追加信託差損益金	△132,124,691
(配当等相当額)	( 66,972,583)
(売買損益相当額)	(△199,097,274)
分配準備積立金	182,556,518
繰越損益金	△213,326,994

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。  
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

【お知らせ】

2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

## K B I エコ・ウォーター・ファンド

決算日 2019年2月28日

[計算期間：2018年3月1日～2019年2月28日]

## 当ファンドの仕組みは次の通りです。

形 態	アイルランド籍オープンエンド契約型外国投信（円建て）
フ ァ ン ド の 目 的	世界（日本を含む）の水関連企業の株式に投資を行うことにより、信託財産の中期的な成長を目指します。
主 な 投 資 対 象	世界（日本を含む）の水関連企業の株式
設 定 日	2007年7月27日
決 算 日	原則として2月28日
投 資 運 用 会 社	K B I グローバル・インベスターズ・リミテッド KBI Global Investors Limited
信 託 報 酬 等	年0.7%以内（運用報酬：年0.635%、管理報酬：年0.065%以内） その他、外国投資信託の監査報酬、資産を外国で保管する費用等がかかります。
分 配 方 針	信託財産から生じる利益は、信託終了時まで信託財産中に留保し、分配を行いません。

ご参考として掲載されている当ファンドの損益計算書及び投資有価証券明細表は、2019年2月28日の現地Financial Statementsからの抜粋であり、現地の会計基準に基づき作成され、監査を受けたものです。

## 損益計算書

2019年2月28日まで

	至2019年2月28日 日本円
収益	
営業収益	83,926,159
フェア・バリューでの損益の金融資産純利益	159,180,561
純為替損	(2,065,313)
投資収益合計	241,041,407
営業費用	(35,241,543)
金融費用控除前純利益	205,799,864
金融費用	
フェア・バリューでの損益ではない金融負債金利費用	(505,185)
キャピタルゲイン課税	(3,951,003)
還付請求不可の源泉徴収税	(13,989,081)
ディーリング・プライスのオペレーションによる買戻し可能利益参加型株式保有者に起因する純資産の増加	187,354,595



## 投資明細書

2019年2月28日時点

括弧内は2018年2月28日時点の相当国保有率を示す

保有	フェア・バリューによる金融資産損益	フェア・バリュー 日本円	純資産比率 (%)
	<b>株式: 97.10% (2018: 96.56%)</b>		
	Bermuda: 4.50% (2018: 4.47%)	176,763,646	4.5
	Brazil: 1.12% (2018: 2.02%)	43,949,323	1.12
	British Virgin Islands: 0.00% (2018: 0.60%)	-	-
	Canada: 5.00% (2018: 10.69%)	197,040,410	5
	Cayman Islands: 1.33% (2018: 2.22%)	52,348,183	1.33
	Finland: 1.28% (2018: 1.49%)	50,253,370	1.28
	France: 4.01% (2018: 7.15%)	157,787,338	4.01
	Germany: 0.00% (2018: 1.22%)	-	-
	Hong Kong: 2.78% (2018: 3.31%)	109,238,759	2.78
	India: 2.49% (2018: 3.12%)	97,852,982	2.49
	Ireland: 1.99% (2018: 1.54%)	78,420,754	1.99
	Israel: 0.00% (2018: 0.87%)	-	-
	Japan: 4.09% (2018: 1.13%)	160,669,200	4.09
	Mexico: 1.28% (2018: 1.70%)	50,170,329	1.28
	Netherlands: 4.52% (2018: 4.39%)	177,570,923	4.52
	Philippines: 1.89% (2018: 2.10%)	74,167,703	1.89
	Republic of South Korea: 3.25% (2018: 1.64%)	127,686,940	3.25
	Singapore: 0.37% (2018: 0.56%)	14,516,781	0.37
	Sweden: 2.43% (2018: 0.00%)	95,394,102	2.43
	Switzerland: 2.22% (2018: 0.00%)	87,108,582	2.22
	United Kingdom: 7.18% (2018: 7.61%)	282,689,157	7.18
	United States: 45.37% (2018: 38.73%)	1,784,128,324	45.37
	<b>株式合計</b>	<b>3,817,756,806</b>	<b>97.1</b>
	<b>投資合計額</b>	<b>3,817,756,806</b>	<b>97.1</b>
	現金および現金同等物*	128,418,121	3.27
	その他純負債	(14,279,934)	(0.37)
	<b>買戻し可能利益参加型株式保有者に起因する純資産</b>	<b>3,931,894,993</b>	<b>100</b>

\*すべての現金保有はNorthern Trust Companyに保管されております。

## 日本短期債券マザーファンド

### 《第21期》決算日2019年7月22日

[計算期間：2018年7月24日～2019年7月22日]

「日本短期債券マザーファンド」は、7月22日に第21期の決算を行いました。  
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第21期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とし、ポートフォリオのデュレーション調整と銘柄選択による収益獲得をめざして運用を行います。ポートフォリオのデュレーションはベンチマークの平均を中心に調整します。デュレーション調整は主としてファンダメンタルズ分析に基づく中期的な金利見通しに沿って行います。銘柄選択は信用リスクと金利スプレッドを定量的・定性的に分析して行います。NOMURA-BPI短期をベンチマークとし、同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。
主 要 運 用 対 象	わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	外貨建資産への投資は行いません。

### ○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		NOMURA-BPI短期		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
17期(2015年7月22日)	11,106	0.3	235.80	0.2	98.5	—	7,875
18期(2016年7月22日)	11,161	0.5	236.97	0.5	94.1	—	2,486
19期(2017年7月24日)	11,175	0.1	235.85	△0.5	97.3	—	2,281
20期(2018年7月23日)	11,202	0.2	235.65	△0.1	97.6	—	2,061
21期(2019年7月22日)	11,221	0.2	235.76	0.0	98.3	—	1,840

(注) NOMURA-BPI短期とは、野村証券株式会社が発表しているわが国の残存期間1年から3年の債券で構成されている債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI総合のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		N O M U R A - B P I 短 期		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率
	騰 落 率	率	騰 落 率	率			
(期 首) 2018年7月23日	円	%		%	%	%	%
	11,202	—	235.65	—	97.6	—	—
7月末	11,206	0.0	235.69	0.0	95.3	—	—
8月末	11,205	0.0	235.65	0.0	96.0	—	—
9月末	11,206	0.0	235.64	△0.0	97.0	—	—
10月末	11,213	0.1	235.71	0.0	96.4	—	—
11月末	11,208	0.1	235.71	0.0	92.0	—	—
12月末	11,204	0.0	235.75	0.0	92.3	—	—
2019年1月末	11,200	△0.0	235.80	0.1	97.2	—	—
2月末	11,206	0.0	235.73	0.0	96.8	—	—
3月末	11,209	0.1	235.82	0.1	95.9	—	—
4月末	11,209	0.1	235.70	0.0	96.3	—	—
5月末	11,215	0.1	235.74	0.0	96.8	—	—
6月末	11,224	0.2	235.87	0.1	99.2	—	—
(期 末) 2019年7月22日	円	%		%	%	%	%
	11,221	0.2	235.76	0.0	98.3	—	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○運用経過

## ●当期中の基準価額等の推移について

## ◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ0.2%上昇しました。

## ◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマーク(NOMURA－BPI短期)の騰落率(0.0%)を0.2%上回りました。

## 基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

## ●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

債券利子収入を享受したほか、国内金利が低下したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

## ●投資環境について

### ◎国内短期債券市場

- ・国内金利は低下、一般債の国債とのスプレッド(利回り格差)は拡大。
- ・国内金利は、期初から2018年10月ごろまで概ね横ばいで推移していましたが、その後需給の引き締めや海外金利の低下などから低下基調となり、前期末比低下した水準で期末を迎えました。こうしたなか一般債の国債とのスプレッドは、日銀の社債買入オペや投資家の資金余剰感などにより概ね良好な投資環境であったものの、英国の欧州連合(EU)からの離脱の行方に対する懸念などから円建外債の一部銘柄などが拡大しました。2019年5月から期末にかけては、国内金利が低下する場面で円建外債以外が拡大しました。

## ●当該投資信託のポートフォリオについて

### ◎組入比率

- ・期を通じて高位組み入れを維持しました。

### ◎債券種別構成

- ・国内金利の低位安定推移を見込み、利回り向上の観点から一般債をオーバーウェイトとしました。

### ◎デュレーション(平均回収期間や金利感応度)

- ・日銀の緩和的スタンス継続から、デュレーションをベンチマーク対比長めで調整しました。

### ◎残存期間構成

- ・利回り向上の観点から中期ゾーンをオーバーウェイトとしました。

●当該投資信託のベンチマークとの差異について  
ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(0.0%)を0.2%上回りました。

(プラス要因)

### ◎債券種別構成

- ・国内金利の中短期ゾーンがマイナスで推移するなか、プラス利回りの一般債をベンチマーク対比でオーバーウェイトとしていたこと。

### ◎残存期間構成

- ・国内金利が低下するなか、中期ゾーンをオーバーウェイトとしていたこと。

## ○今後の運用方針

- ・安定した利子収益確保をめざし、債券組入比率は引き続き高位に維持する方針です。
- ・本邦景気は当面海外経済の減速の影響を受けつつも、総じて緩やかに拡大していくとみられます。しかし、消費者物価の前年比は依然として2%に遠く、日銀は引き続き強力な金融緩和を粘り強く続けていくと思われ、中短期金利は引き続き低位での推移を想定します。ファンド全体のデュレーションは、ベンチマーク並みを基本に調整する方針です。
- ・一般債のスプレッドについては、日銀の社債買入オペや投資家の資金余剰感などによる概ね良好な需給環境を背景に概ね横ばい圏で推移し、引き続き一般債は国債と異なりプラス利回りを維持できると予想します。こうした見通しの下、債券種別構成は流動性や銘柄分散に留意しつつ、プラス利回りである一般債の組入比率をベンチマーク比高めに維持します。

## ○1万口当たりの費用明細

(2018年7月24日～2019年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	円 0 (0)	% 0.000 (0.000)	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数  信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	0	0.000	
期中の平均基準価額は、11,209円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2018年7月24日～2019年7月22日)

## 公社債

		買 付 額	売 付 額
国 内	国債証券	千円 30,149	千円 30,161
	社債券	1,304,608	1,499,725

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注) 社債券には新株予約権付社債(転換社債)は含まれておりません。

## ○利害関係人との取引状況等

(2018年7月24日～2019年7月22日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
			$\frac{B}{A}$			$\frac{D}{C}$
公社債	百万円 1,334	百万円 200	% 15.0	百万円 1,529	百万円 -	% -

(注) 公社債には現先などによるものを含みません。

## 利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
公社債	百万円 100	百万円 200	百万円 202

## 利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

種 類	買 付 額
公社債	百万円 300

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJリース、アコム、日立キャピタルです。

## ○組入資産の明細

(2019年7月22日現在)

## 国内公社債

## (A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末						
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
普通社債券	1,800,000 (1,800,000)	1,809,708 (1,809,708)	98.3 (98.3)	— (—)	— (—)	38.1 (38.1)	60.2 (60.2)
合 計	1,800,000 (1,800,000)	1,809,708 (1,809,708)	98.3 (98.3)	— (—)	— (—)	38.1 (38.1)	60.2 (60.2)

(注) ( )内は非上場債で内書き。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

## (B)国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	当期			償還年月日
	利率	額面金額	評価額	
<b>普通社債券</b>	%	千円	千円	
第527回関西電力	0.28	100,000	100,424	2024/4/25
第50回日本電気	0.29	100,000	100,375	2022/6/15
第31回ソニー	0.23	100,000	100,247	2021/9/17
第1回三井住友トラスト・パナソニックファイナンス	0.12	100,000	100,108	2020/10/30
第22回あおぞら銀行	0.1	100,000	99,930	2021/12/10
第28回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	1.56	100,000	102,123	2021/1/20
第6回りそな銀行(劣後特約付)	2.084	100,000	101,227	2020/3/4
第23回三井住友銀行(劣後特約付)	1.61	100,000	102,105	2020/12/17
第5回イオンフィナンシャルサービス	0.23	100,000	100,087	2022/5/27
第75回アコム	0.309	100,000	100,127	2023/2/28
第27回大和証券グループ本社	0.4	100,000	100,752	2023/4/25
第44回野村ホールディングス	0.723	100,000	100,977	2021/2/25
第29回相鉄ホールディングス	0.91	100,000	100,765	2020/6/25
第4回クレディ・アグリコル・エス・エー円貨社債(2014)	0.425	100,000	100,111	2019/11/28
第2回マラヤン・バンキング(2015)	0.509	100,000	100,236	2020/4/30
第19回ルノー	0.36	100,000	99,774	2020/7/6
第11回ウエストパック・バンキング・コーポレーション	0.3	100,000	100,271	2021/1/22
第8回ケーティ	0.3	100,000	100,069	2020/11/13
合計		1,800,000	1,809,708	

## ○投資信託財産の構成

(2019年7月22日現在)

項目	当期		比率
	評価額		
公社債	千円	%	
	1,809,708	98.3	
コール・ローン等、その他	30,761	1.7	
投資信託財産総額	1,840,469	100.0	

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年7月22日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,840,469,757
コール・ローン等	28,711,160
公社債(評価額)	1,809,708,000
未収利息	1,826,168
前払費用	224,429
(B) 負債	159,255
未払解約金	159,129
未払利息	56
その他未払費用	70
(C) 純資産総額(A-B)	1,840,310,502
元本	1,640,019,714
次期繰越損益金	200,290,788
(D) 受益権総口数	1,640,019,714口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,221円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 1,840,487,569円  
 期中追加設定元本額 199,317,422円  
 期中一部解約元本額 399,785,277円  
 また、1口当たり純資産額は、期末11,221円です。

- ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)
- |                           |                |
|---------------------------|----------------|
| 三菱UFJ 積立ファンド(日本バランス型)     | 1,175,181,857円 |
| 三菱UFJ 国内バランス20            | 290,457,315円   |
| 日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)     | 140,387,928円   |
| 日本短期債券ファンドVA(適格機関投資家限定)   | 25,105,446円    |
| 三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド | 8,887,168円     |
| 合計                        | 1,640,019,714円 |

## ○損益の状況 (2018年7月24日～2019年7月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	10,714,161
受取利息	10,763,089
支払利息	△ 48,928
(B) 有価証券売買損益	△ 7,361,300
売買益	1,893,700
売買損	△ 9,255,000
(C) 保管費用等	△ 1,337
(D) 当期損益金(A+B+C)	3,351,524
(E) 前期繰越損益金	221,293,976
(F) 追加信託差損益金	24,069,827
(G) 解約差損益金	△ 48,424,539
(H) 計(D+E+F+G)	200,290,788
次期繰越損益金(H)	200,290,788

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。